

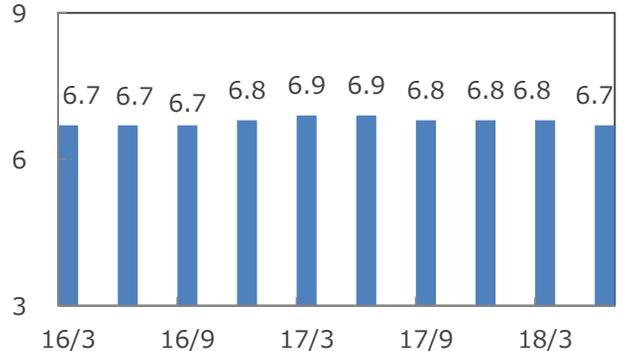
今日のトピック 中国経済、成長率がわずかに鈍化（2018年7月）

4-6月期GDPは6.7%、景気は緩やかな減速へ

ポイント1 4-6月期GDPは6.7%成長 市場の予想通り

- 中国国家统计局は16日、主要経済指標を発表しました。18年4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.7%と、前期の+6.8%から伸びが鈍化しました。成長率は3期ぶりの減速ですが、市場予想通りで、18年の政府の成長率目標の「+6.5%前後」を上回りました。内訳をみると、内需が景気を支えています。

【実質GDP成長率】
(前年同期比、%)



(注) データは2016年1-3月期～2018年4-6月期。(年/月期)
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 投資や生産もやや鈍化 小売売上高は前月からやや戻す

- 18年1～6月の固定資産投資は前年同期比+6.0%と、1～5月（同+6.1%）から伸び率がやや縮小しました。地方政府の債務抑制によりインフラ投資が同+7.3%と、1～5月（同+9.4%）から減速していることが背景です。
- 6月の鉱工業生産は前年同月比+6.0%と、5月（同+6.8%）から減速しました。営業日数の減少などの影響があるとみられます。コンピュータ・情報通信は同+10.9%と、全体を上回りました。
- 一方、6月の小売売上高は前年同月比+9.0%と、5月（同+8.5%）から伸び率が拡大しました。

【固定資産投資とインフラ投資】



(注) データは2015年4月～2018年6月、年初来累計の前年同期比。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 景気は緩やかな減速にとどまる見込み

- 中国国家统计局は16日の記者会見で、中央政府による地方政府債務の抑制は続くものの、インフラ投資のうち承認されたプロジェクトの執行ペースを加速させることができるとコメントしました。中央政府はインフラ投資の伸びを年後半に安定させる方針を持っているとみられます。
- 今後は、習近平指導部が掲げる、経済成長の量より質を重視する方針の下で、IT関連の生産や投資の増加が続くことに加え、地方政府のインフラ投資の抑制姿勢が緩和するとみられることが景気を下支えすると考えられます。このため、中国景気の減速は緩やかなものにとどまる見込みです。

ここもチェック! 2018年7月10日 中国株式市場の動向（2018年7月） 2018年7月10日 『中国製造2025』と米中貿易摩擦

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。